

補助金等審議会の経緯について

令和元年度

日程	次第（協議事項）	協議内容
第1回 7/5（金）	(1)伊予市総合計画の概要 (2)伊予市の財政状況 (3)伊予市の補助金について (4)スケジュール及び審議手法 ※ 委員委嘱、会長選出、会長職務代理指名、諮問、審議会会議録の公開、傍聴の可否決定	(諮問内容) ○適正な補助金等の交付に関する、新たな基準や仕組みに関すること ○その他必要と考えられる事項 (協議) ○平成18年に策定した「見直し基準」を基本に議論を進めたい。 ・個々の補助金を見直すのではなく、仕組みを作ることが目的では。 ・どういう補助金が出ているか分かりにくい。
第2回 9/24（火）	(1)平成30年度補助金調査結果 (2)補助金等審議会の審議手法	○他市を参考に調査した補助シートの審議 ・多額の剰余金の取扱いについて ・現場の判断による補助金事業が幅を持って認められている現状がある。 ・補助金支出の理念が必要。各部局で判断基準を考えていくべき。 ・地域に特化した補助金を検討すべき ・申請書は統一すべき。 ・無尽蔵に財源があればやるべきことばかり。あえて見直すべき状況になっている。
第3回 11/13（水）	(1)補助金の事例説明 (2)補助金等審議会の進め方について	○具体的な12補助事業について審議 ・補助金の積算根拠がよく分からない。具体的な使途が不明。本当に補助が必要か。 ・収益のある実施事業に補助を出す必要性 ・似たような名前の補助が多い。 ・補助の対象と異なる支出が見られる。 ・補助の公平性を整理する必要がある。 ・計画書や決算書にばらつきがある。 ・効果について、どう判断しているか不明 ・新しい発想で交付基準を作ってはどうか
第4回 1/17（水）	(1)見直し基準の検証 (2)補助金等の取扱いに関するガイドラインについて	・数値で効果を見るのは客観的でよいが、数値で測れない効果もある。補助事業について評価する委員会でのチェックが望ましい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・補助金分類にメリハリを付けるのは有効 ・補助金は最終的に市民に公表すべき
第5回 3/11(水)	<p>(1)補助金等の取扱いに関するガイドラインについて</p> <p>(2)次年度の補助金等審議会</p> <p>審議会後、中間報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フローチャートの整理ができている。 ・時代の変化に合わせた市民、団体のアイデア、取り組みを惹起し、新たな事業に対し、補助をしていくべき。 ・「期待される効果」にKPIを求めるべき ・透明性を求めるんだら、一般的な要綱ではなく、規則、法令に準ずるものという形で取りまとめるべき。

令和2年度

日程	次第（協議事項）	協議内容
第1回 8/28（金）	<p>(1)補助金に係るこれまでの経緯</p> <p>(2)補助金等交付規則について</p> <p>(3)スケジュール及び内容</p>	<p>○ガイドラインの制定、事業効果の追加</p> <p>○交付規則の県内制定状況、規則案の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来は規則があって、ガイドラインがあって。ただ元々の要綱に対して規則が必要になったと。順番は前後するが、そういう関係性でよい。
第2回 10/30（金）	<p>(1)補助金等交付規則について</p> <p>(2)令和元年度補助金交付の公開について</p>	<p>○補助金等交付規則に合わせたガイドラインの修正（要綱のひな形の追加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開資料の交付金額（予算・決算）の表示について、どこまで必要か。 ・補助金の順列についての整理（見せ方） ・相手方の公開範囲、見せ方について
第3回 1/22（金）	<p>(1)令和元年度補助金交付状況の公表について</p> <p>(2)補助金等交付規則について</p> <p>(3)補助金支出の個別事例</p>	<p>○昨年度審議した補助金の取扱いについて</p> <p>○補助申請、報告書の差異、繰越金0、補助金額が事業費・繰越額を上回る場合について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度補助金の記載場所について ・「成果（長期的）」よりむしろ「効果（直接的）」とすべき ・新たな要綱作成の際、ひな形の要綱で収まるかどうか。 ・交付規則とガイドラインの時系列的記述の整理をすべき ・「却下」「命ずる」の表現について ・効果の明記により、見合った支出が期待できる。申請者も責任をもって申請、実行し

		<p>てもらえると思う。第一歩が踏み出せている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書が過去のを踏襲していると感じる。例示したひな形に可能な範囲で合わせれば、徐々に統一されていく。 ・毎年0の繰越金は不自然に感じる。 ・補助金を出すとき、補助対象事業をしっかりと確認し、余剰が出た場合を確認する。事業ができなければ返金していただくべき。
第4回 2/17 (水)	<p>(1)令和元年度補助金支出の公表について (2)補助金等交付規則について (3)補助金等の取扱いに関するガイドラインについて (4)中間報告について</p> <p>審議会後、中間答申</p>	<p>○公表資料は、大分類を設定。次年度予算額は(参考)とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・押印が必要な場合とはどんなときか。 ・補助金の設定額が見合ったものか、定期的に見直しの機会を設ける必要がある。 ・今後の運用のあり方とか展望と言う提言も審議すべきではないか。 ・規則とガイドラインの提示なので、中間報告ではなく、中間答申とすべき。

令和3年度

日程	次第(協議事項)	協議内容
第1回 8/4 (水)	<p>(1) 補助金に係るこれまでの経緯 (2) 令和2年度補助金交付状況について (3) スケジュール及び内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染対策に関する補助金の名前を出す出さないについて ・効果の欄は、目的に基づく想定効果ではなく、実績的效果を書くべき。空欄は埋める ・年度内で測れる KPI を設定し、その数値を評価材料にして効果の記述をしては。 ・以前より交付を受けた件数や人数が見やすくなった。
第2回 10/6 (水)	<p>(1) 令和2年度補助金交付状況について (2) 補助金等交付に係る効果(成果)の記載について (3) 補助金等交付規則、ガイドラインの修正案について</p>	<p>○補助金等交付状況の効果欄の修正 ○申請書、実績報告書の効果記載は半ば ○規則、ガイドラインのシンプル化提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数字の桁がずれていて、違和感がある。 ・ガイドラインができたので、昔ながらの様式を使い続けるのではなく、行動変容させること。 ・各部署の判断基準に統一性があってもいいのでは。 ・規則修正案に関する3意見(今回審議分)

令和3年12月14日
第3回補助金等審議会資料4